



## 高橋 瑞樹

TAKAHASHI MIZUKI

1976年 柏崎市出身

市内中央町にあるKEN'S CAFÉは、フランスの取れた日替わりのおいしいランチとケーキが人気の店。そのカフェで、リーダーとして働く高橋瑞樹さんは、実はボタンアコーディオンの奏者として秋や冬に開催される柏崎の音楽イベント「音市場」にも出演し、音楽の楽しさやボタンアコーディオンの魅力を伝えている。

元々英語やフランス語など語学が好きな高橋さんは、料理やお菓子といった食に関わるアルバイトをしながら資金を貯め20代でフランスへ渡った。南フランスのプロヴァンス地方に居住し、モナコのホテルで働きながらデザートやお菓子、デコレーションなどを修業した。初めの頃は、学んだフランス語も現地ではうまく通じず苦労することも多かった。お菓子の基礎をフランスの学校で習ったわけではなかったため、自分でテキストを探して一生懸命勉強するうちに職場の人たちも次第に認めてくれるようになったという。フランス菓子は技術も高く自分の仕事に誇りを持って楽しそうに働く同僚たちの姿勢は今も忘れられないと話す。

アコーディオンとの出会いはパリ。街角や公園などフランスではいつも音楽があふれていて、アコーディオンの明るく

雰囲気のある音色にずっと憧れていた。子供の小学校入学を機に日本に帰ることを決め、13年間のフランス生活でやり残したことは何かと考えた時、アコーディオンをやりたかったことを思い出した。

瑞樹さんは楽器店で中古のボタンアコーディオンを購入。たくさんのボタンの中にはピアノのようにメロディーを弾ける単音のボタンや和音が弾けるボタンもあり、ボタン同士の間が狭いため弾きやすい。空気を送る蛇腹はピアノでは出せない音の揺らぎも表現できて、これはすごいと大感激した。勉強したいという店の人が著名な先生を紹介してくれた。日本に戻るまでの2カ月間、基礎を一生懸命教わり益々その魅力にはまると、ついには新しい楽器を購入。先生は瑞樹さんが弾きやすい音の組み換えを楽器店に指示してくれた。今、手にしているのは瑞樹さんのためだけに調整された、世界に1つだけのボタンアコーディオンだ。

柏崎に戻り8年。教わったことを基礎にしながらいまも独学でほぼ毎日練習している。音市場に参加するようになり音楽を通して様々な人との出会いやつながりが生まれた。今の仕事もそのひとつだと感謝する。「音楽と料理は世界共通。フランスにいる時に感じた思いをずっと続けていけたらいいなと思います」

コロナ禍で思うようにはいかないが、カフェや屋外でのライブ、伴奏などボタンアコーディオンの音色を聞いてもらう機会を少しずつ増やしていきたいと話した。



音市場 vol. 10 2.19(土)開演15時～  
20(日)開演11時～

前売券(2日間共通):1500円(当日2000円)  
会場:アルフォーレ大ホール \*高校生以下無料  
主催:かしわざき音楽商店街